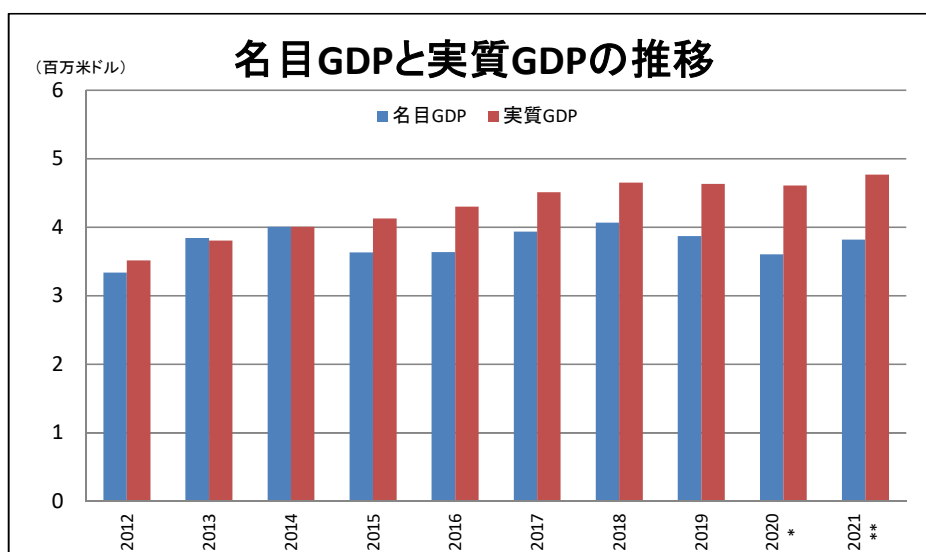


パラグアイ主要経済指標(2021年4月)

※ I ~ V および VII は全てパラグアイ中央銀行発表データ

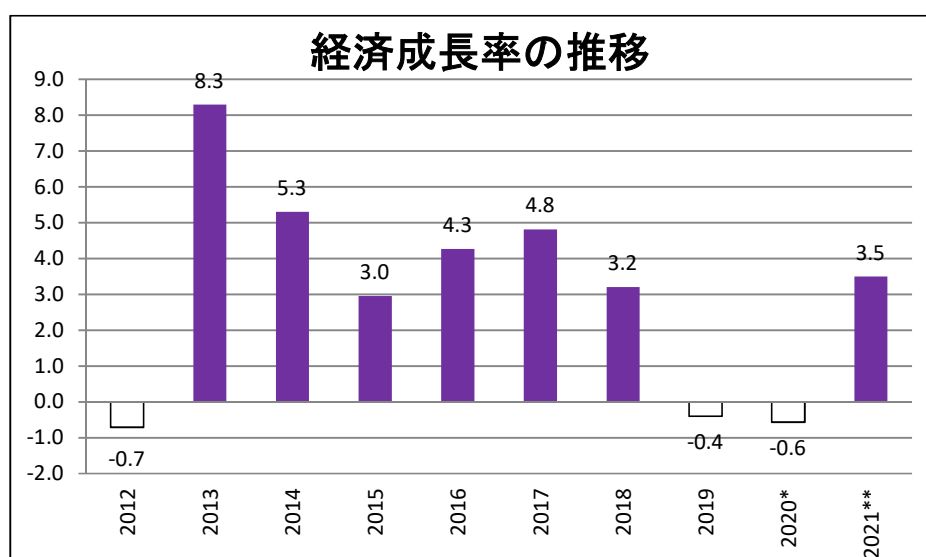
I 名目GDP・実質GDP・経済成長率 ※前月より変更なし

●4月時点で2021年度の名目GDPは38,198百万米ドル、
実質GDPは47,711百万米ドルと推定されている



※2020年は暫定値、2021年は推定値

●4月時点で2021年の経済成長率は3.5%と推定されている。



※2020年は暫定値、2021年は推定値

II 貿易

<2021年4月貿易データ概要>

(1)輸出

4月の輸出総額は935,527千米ドルであり、1～4月の総額は3,230,677千米ドルとなった。

*** 前年度比28.9%増**

(大豆種子23.9%増、大豆油29.6%増、大豆粉34.2%増、穀物92.6%増、肉類44.8%増、電力2.2%減、自動車部品(ハーネス)39.5%増、その他42.0%増)

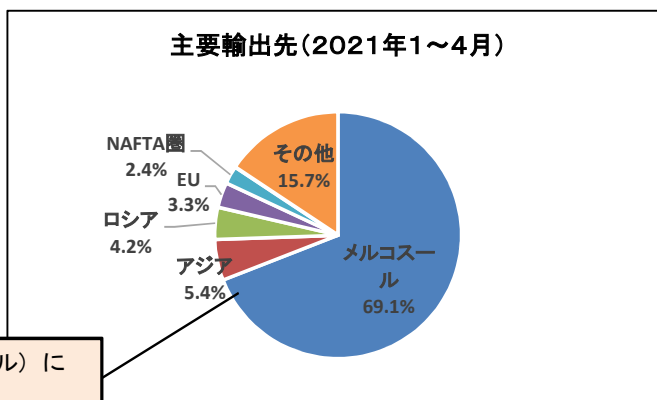
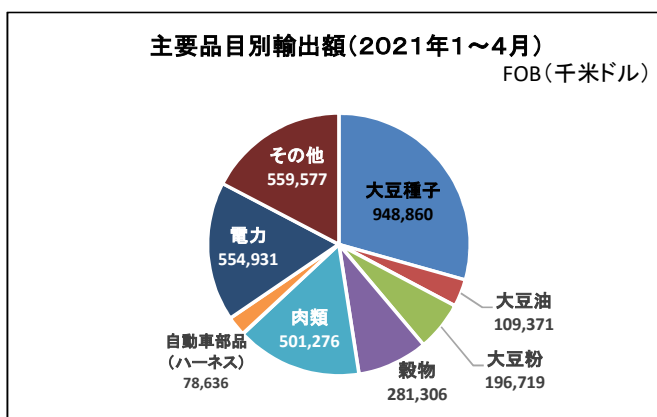
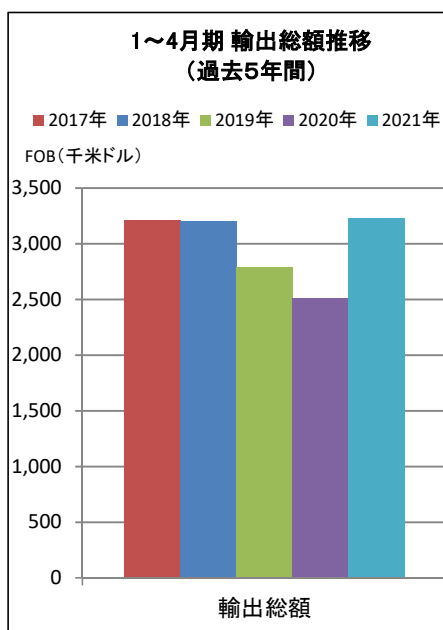
(2)輸入

4月の輸入総額は903,097千米ドルであり、1～4月の総額は3,474,588千米ドルとなった。

*** 前年度比12.8%増**

(食料品2.2%増、酒類・タバコ14.1%増、紙・布類・薬・衛生用品等4.7%増、燃料5.7%増、自動車・電子機器等0.4%減、化学物質・薬品25.8%増、機械類・部品15.0%増、その他22.6%増)

(1)輸出



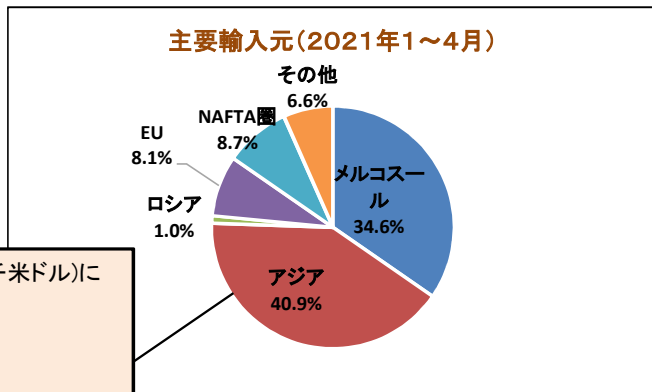
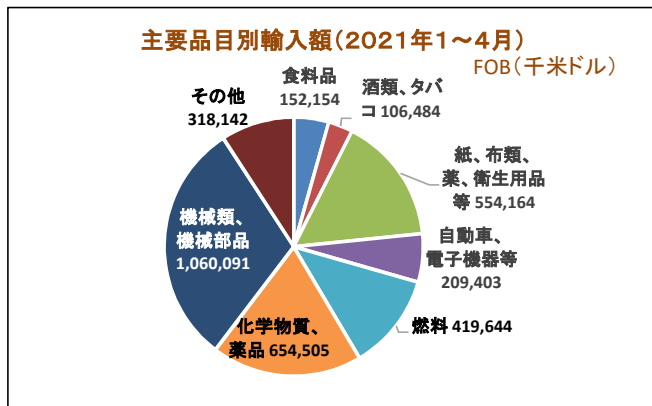
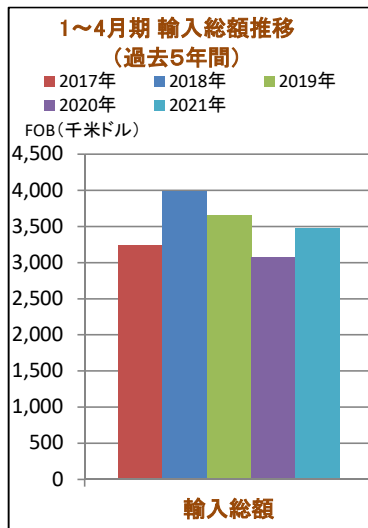
【アジア向け輸出(総額173,593米ドル)に占める割合】

台湾: 38,938(千米ドル)【22.4%】

日本: 2,225(千米ドル)【1.3%】

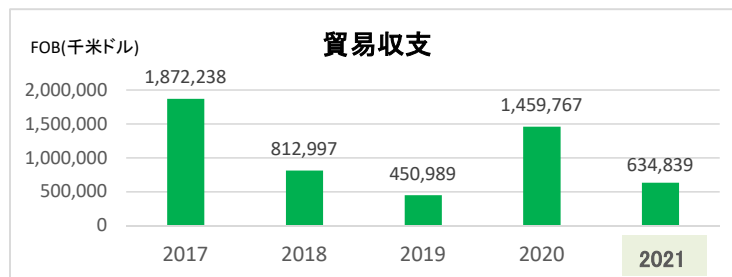
中国: 6,467(千米ドル)【3.7%】

(2) 輸入



【アジアからの輸入(総額1,421,619千米ドル)に占める割合】
 台湾: 18,459(千米ドル)【1.3%】
 日本: 67,343(千米ドル)【4.7%】
 中国: 1,008,281(千米ドル)【70.9%】

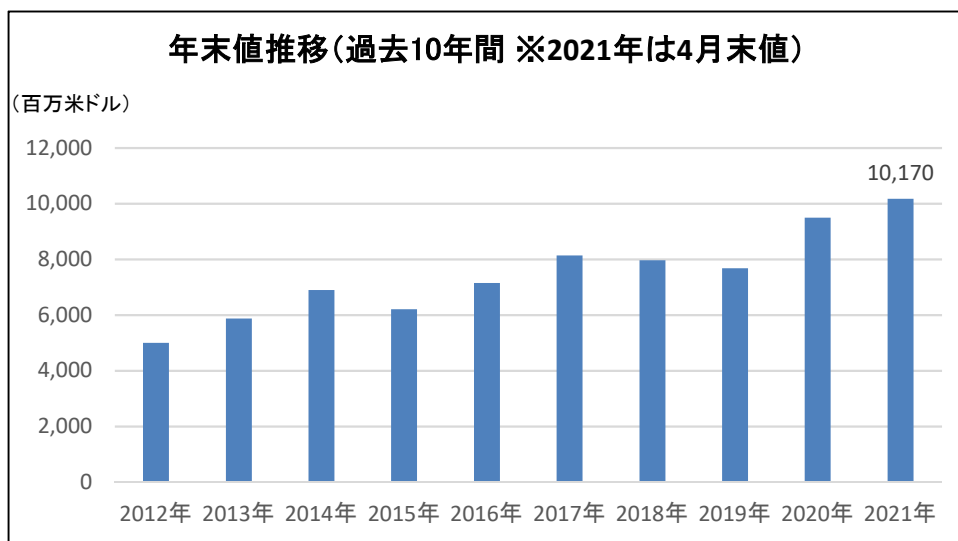
(3) 貿易収支(過去5年間、再輸出等を含めた総額ベース)



※2021年は1～4月データ

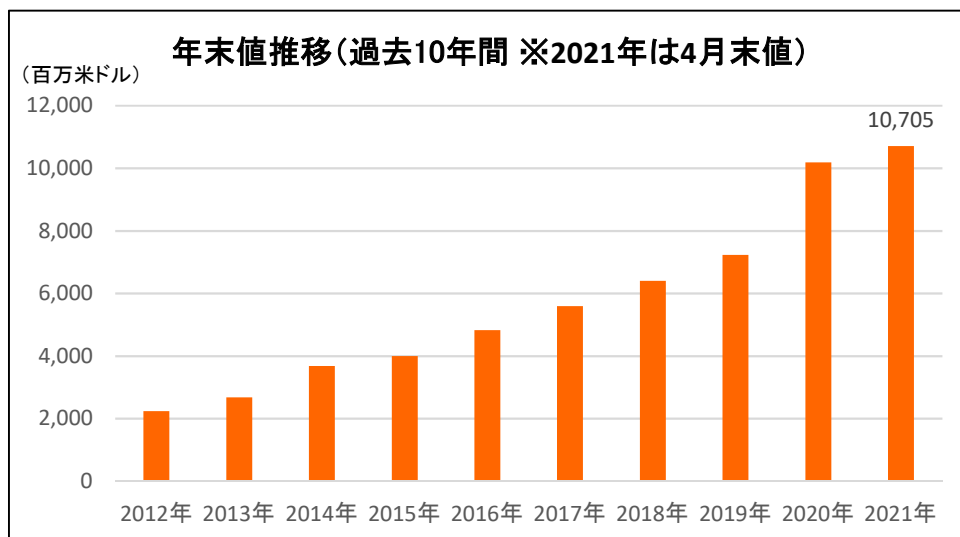
Ⅲ 外貨準備高

2021年4月末の外貨準備高は、約10,170百万米ドルであった。



Ⅳ 対外累積債務

2021年4月末の対外累積債務は、約10,705百万米ドルであった。



V 消費者物価指数

＜消費者物価指数概要＞ *小数点第二位切上げ

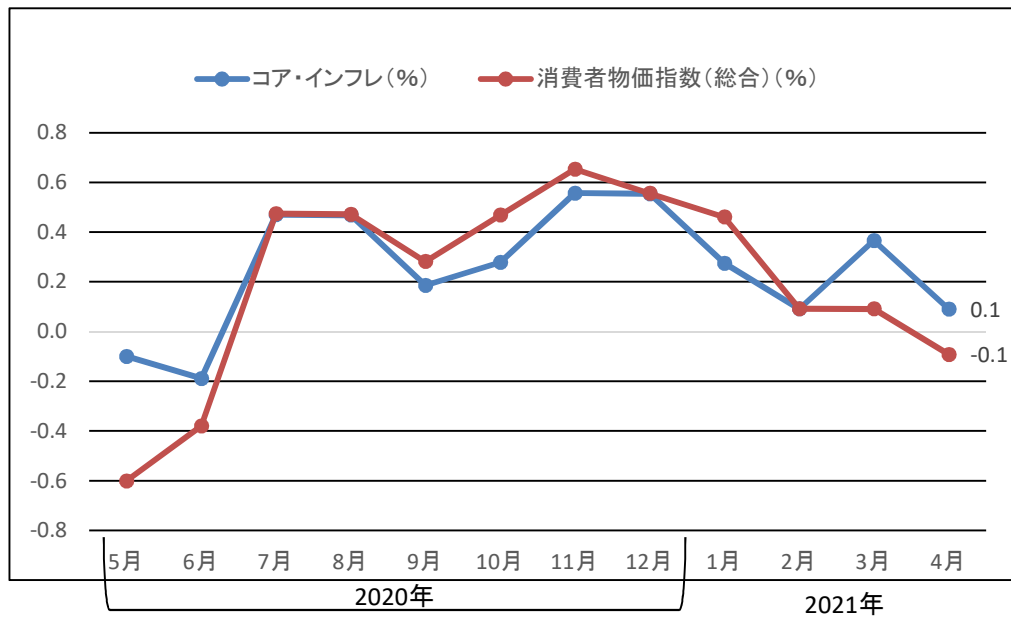
(1)コア・インフレ

4月のコア・インフレ率は0.1%であった。

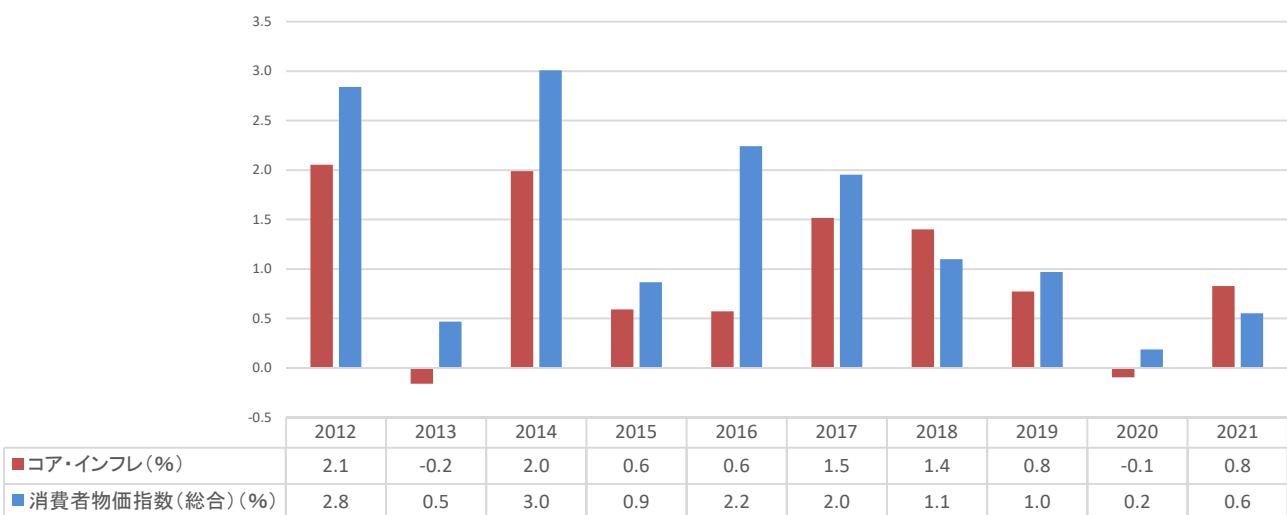
(2)消費者物価指数上昇率(総合)

4月の消費者物価指数上昇率(総合)は-0.1%であった。

＜過去12か月推移＞



【参考】2012～2021年 年間累積値(4月時点)比較



VI 雇用統計(パラグアイ統計局発表) ※前月より変更なし

2021年第1四半期の失業率(全国)は8.1%(306,228人)であり、前期より0.9ポイント上昇した。

前期と比べ、女性失業者は211人減少したが、男性失業者が39,537人増加した。農村の失業者数が急増(前期+2.6ポイント)した。

<失業率(%)推移>

期間	全国	男/女(全国)	都市/農村
2020年 第2四半期	7.6	6.7/8.8	9.1/4.9
〃 第3四半期	8.2	5.8/11.5	10.1/4.7
〃 第4四半期	7.2	4.9/10.2	8.8/4.2
2021年 第1四半期	8.1	6.7/10.2	8.9/6.8

※BoquerónとAlto Paraguay除く

*小数点第二位切り捨て

<最低賃金>

2021年4月現在: 2,192,839グアラニー

参考: 最低賃金の改定歴(2010年~, グアラニー)

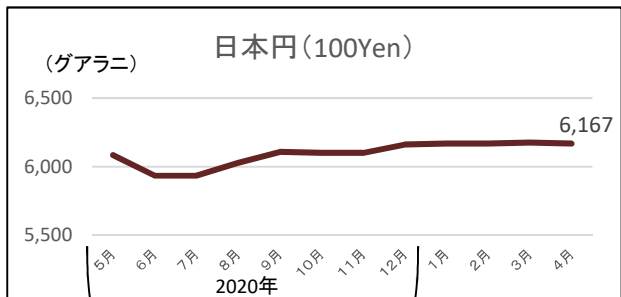
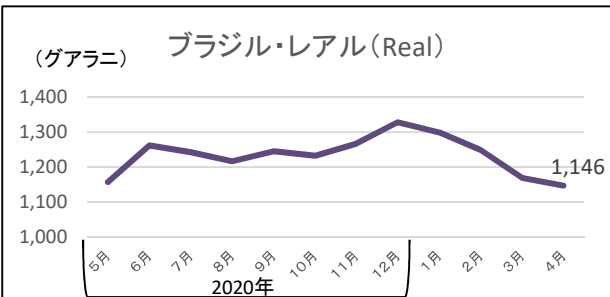
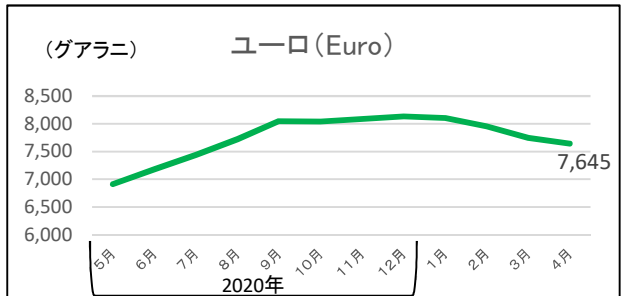
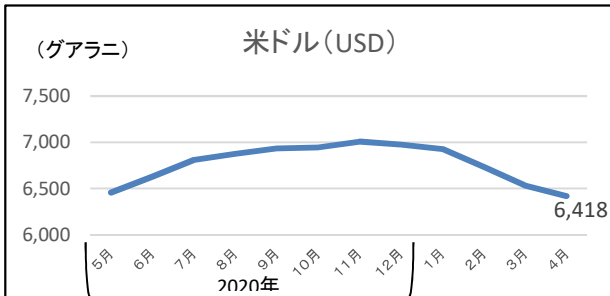
改定日	最低賃金	一日あたりの賃金	前回からの増加率
2010年7月	1,507,484	57,980	7%
2011年4月	1,658,232	63,778	10%
2014年3月	1,824,055	70,156	10%
2016年12月	1,964,507	75,558	7.7%
2017年7月	2,041,123	78,505	3.9%
2018年7月	2,112,562	81,252	3.5%
2019年7月	2,192,839	84,340	3.8%

VII 為替相場

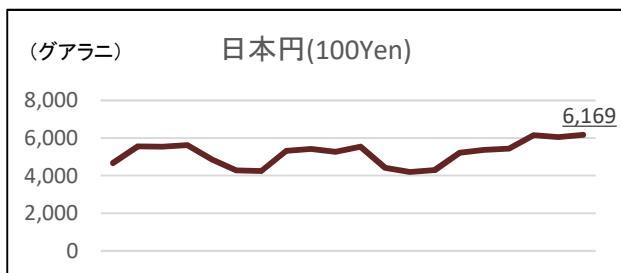
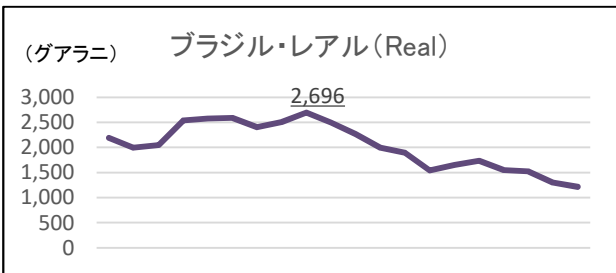
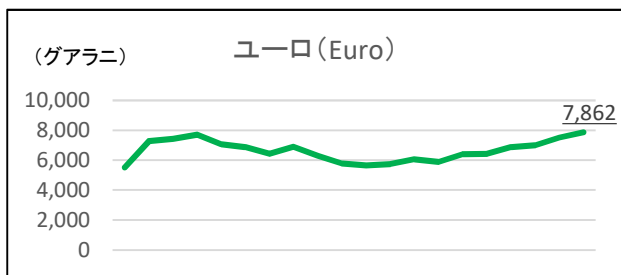
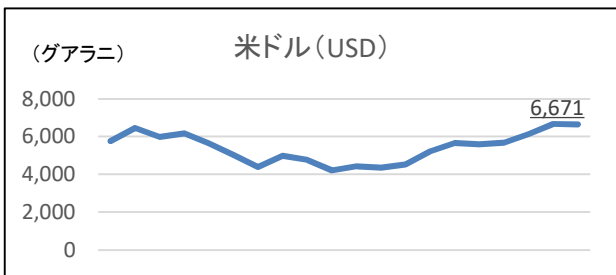
<為替レート概要(月平均値、売値)>

- (1) 対ドル(Gs/US\$)
4月の対ドル為替レート(Gs/US\$)は6,418 Gsとなった。
- (2) 対ユーロ(Gs/EURO)
4月の対ユーロ為替レート(Gs/EURO)は7,645 Gsとなった。
- (3) 対リアル(Gs/REAL)
4月の対リアル為替レート(Gs/REAL)は1,146 Gsとなった。
- (4) 対日本円(Gs/円)
4月の対日本円為替レート(Gs/円)は6,167 Gsとなった。

<過去12か月推移>



【参考】各主要通貨対グアラニー為替相場: **年平均値推移(2002~2021)** (下線部は最安値)



VIII 4月の経済トピックス

1 債務状況

財務省の最新報告書によると、今年2月の債務はGDPの35.6%に相当する129億2,330万ドルに増加したことが分かった。世銀の3月報告書では、今年のパラグアイの債務はGDPの35.7%であり、同様に、IMFはGDPの35.4%となるとしていたが、すでに両国際金融機関が予測する今年対GDP比債務の最大水準に達したことになる。財務省は、新型コロナウイルス感染症対策費用の確保を目的に、追加での公債発行を予定している。

2 畜産業者による中国との外交関係樹立の要求

コルディジェーラ農村組合（ARP）のパッパラルド会長（畜産業）は、中国と外交関係を樹立すれば、農牧製品の輸出先市場の問題と同様、新型コロナウイルス感染症拡大問題の大部分も解決しうるだろうと語った。同会長は、厚生省の計画では、パラグアイ国民全てが同感染症ワクチン接種を完了するまでに1年以上かかると述べ、総人口の700万人の接種に必要であろう1,400万回分という多量の信頼できるワクチンを所有し、我々に販売できるのは中国のみであり、台湾と外交関係を有しているために、中国のワクチンを購入することができないと述べた。また、台湾の人口は2,300万人しかなく、2019年の台湾への輸出額は約7,380万ドルであったが、パラグアイは中国から37億ドル相当の輸入をしており、大豆、トウモロコシ、米、肉等の産品を伯や亜を経由して売のをやめることによって、現在よりも平均20%価格を上乗せしてパラグアイから中国へ輸出できるようになり、50億ドルの輸出が可能になるだろうと話した。（当館注：2019年の輸出額は対中：約1,075万ドル対伯：約28億3,600万ドル、対亜：約16億4,300万ドル。）

3 商工省による被服輸入業者支援

15日、カスティグリオニ商工大臣およびマंकエーゴ商業副大臣はパラグアイ輸入組合（CIP）と会談し、被服輸入部門の競争性回復への支援を行うことに合意した。サレムマ組合長によると、輸入衣類販売は国境付近やショッピングモールで行われているが、手続や高価格によって、業者が競争性を失い、売上げが落ち込んでいる。また、マंकエーゴ副大臣は、輸入に伴う手続の簡素化によって時間と経費の削減方法を探り、価格と税を見直すことで競争性を確保すると話した。また、こうした支援を行うために、商工省が財務省および税関と輸入業者の間を取り持つと述べた。

VIII 4月の経済トピックス

4 パラナ川の水位低下による大豆輸出への影響

今年第1四半期における国際市場の大豆、トウモロコシ、コメの価格は、1トンあたり平均186.6ドルから413.7ドルで推移した。価格の好調は今年末まで継続しそうであり、パラグアイ経済への新型コロナウイルス感染症の影響緩和に貢献しうる。しかしながら、クリスタルド生産組合（UGP）長は、パラナ川の水位低下によって、収穫した大豆のパラナ川を介した輸出が困難になっており、パラグアイ川に向けて約300kmの陸路を用いてセントラル県へ迂回する業者にとっては追加経費が発生しているが、その方法も順調にいく保証はないと説明した。

5 韓国の支援による電気自動車プロジェクト

23日、ウ駐パラグアイ韓国大使は、カスティグリオーニ商工大臣を表敬し、パラグアイの電気自動車プロジェクトを韓国が支援すると述べた。同大使によると、プロジェクトは来年開始され、5年間の継続する予定である。韓国から派遣される複数の専門家の指導の下で実施され、パラグアイ側は機器や部品の持込みに配慮する。また、同商工大臣とはプロジェクトが予定通りに開始されるよう必要な支援を行うことで合意したと明かした。さらに、韓国はパラグアイの自動車産業が国の成長と発展に貢献し、パラグアイの国際市場への参入に役立つと考えており、このようなプロジェクトによって韓国とパラグアイの結びつきが強化されることを望んでいると話した。

6 台湾による11品目の関税撤廃およびトルコへの牛肉輸出

22日、カスティグリオーニ商工大臣による署名が行われ、パラグアイから台湾への輸出について新たに11品目の関税が撤廃された。同11品目の関税撤廃は、既に昨年10月に実施された第3回台湾・パラグアイ経済協力協定合同委員会会議で合意されており、今回の署名を経て公式に承認された。署名式にはハン駐パラグアイ台湾大使も出席した。同大使によると、1月の税関データでは、パラグアイ産牛肉は台湾市場で35%のシェアを占め、米国（27%）、オーストラリア（15%）、ニュージーランド（15%）を凌いで最大の供給国となっている。

今回署名された文書は議会承認を得るため台湾に送られる。両国内で承認手続きが完了した後、関税撤廃の大統領令の公布及び発効となる。

さらに、トルコ市場はパラグアイ産牛肉の受入れ準備をしている。在トルコ・パラグアイ大使館の2年間の働きの結果、二国間協力における重要な前進が達成された。バルデス駐トルコ・パラグアイ大使は、テレビインタビューのなかで、成長が明白な国の地元市場への扉が様々な製品によって開かれることで、とりわけ貿易において関係が前進したと述べた。また、牛肉はパラグアイが誇る産品であり、外国でパラグアイを紹介する主要なカードの一つであり、重要なトルコ市場へもう少しで参入でき、同時に巨大なイスラム市場への入り口にもなると指摘した。加えて、トルコ向けパラグアイ産牛肉はハラール認証を受けることとなり、イスラム教徒が食すことが可能であり、すでにパラグアイはアラブ諸国にハラール認証済みの牛肉を輸出してきていると話した。パラグアイとトルコの関係が多様化していくにつれて、両国間の貿易額も年間約3億ドルに達していることも劣らず重要なデータである。

VIII 4月の経済トピックス

7 国内製薬会社へのワクチン製造許可

23日、ガルシア・パラグアイ製薬産業会議所会頭は、商工省での会合にてロシア製コロナ感染症対策ワクチンの製造に必要な設備を有する研究所が国内に1か所存在すると明かした。ガルシア会頭によると、国内の製薬会社はミダゾラムやアトラクリオなどの医薬品を供給しており、パラグアイ国内でのSputnik V製造についても言及された。また、同組合のアビラ事務局長は、厚生省から組合に対して国内に製造設備があるのか照会があり、肯定する回答はすでに同省から外務省に報告されたと考えられ、外務省はこれを今後大統領府に送る必要があると述べた。さらに、量産への政府の承認は、ワクチン製造元であるロシア直接投資基金に通知される。同基金がワクチン製造を承認し、技術移転が行われた場合、半年後には月間50万回分のSputnikVの製造が可能になると付言した。